

■東日本大震災への対応（第2報）＜第6次派遣～第11次派遣＞

○第6次派遣(3月28日～29日):毛利栄征、中嶋 勇、田中良和、有吉 充



【パイプライン分水工(福島県)の被災状況】  
道路下に埋設されていたパイプラインと空気弁工が大きく変状しており、浮上や蛇行量、たわみ量を計測し、全体の被害状況を確認。



【パイプライン直上に生じた亀裂の発生状況】  
パイプラインの浮上によって地表面には幅30cm以上、深さ100cm以上の大きな亀裂が発生。道路側面部は大きく沈下し、周辺地盤も含めた全体が被災している状況を確認。

○第7次派遣(3月29日):増川 晋、田頭秀和、黒田清一郎、林田洋一



【傾斜遮水ゾーン型の調整池(栃木県)の被災状況】  
取水施設の両端に設置されたいたコンクリート斜面保護工の破損と堤体法面の欠損。



【傾斜遮水ゾーン型の調整池(栃木県)の被災状況】  
廻り堰形状の堤体屈曲部における池敷斜面の変状。

○第8次派遣(3月30日～31日):毛利栄征(へり調査)、中嶋 勇



【フィルダム(岩手県)の堤頂縦断ひび割れ】  
ダム堤体の堤頂アスファルト舗装が、ダム軸方向にほぼ全長に亘って幅10cm程度のひび割れが発生。ひび割れに雨水が入らない養生と亀裂深さの確認方法について助言。



【(宮城県)農業水利事業管内でパイプ被災状況確認】  
パイプライン直上の農道が沈下し、ひび割れも発生しており、開削してパイプの破損状況等を調査。周辺の地下水位が高く、暫定的な地下水排水によってパイプ本体の状況を確認し、パイプ内部からの漏水は見られず。





【宮城県追波川河口近くの農地の被害】  
追波川を遡上した津波が河川堤防を越流し、農地が完全に湛水。河川橋梁が一部流失していることも上空から確認。



【岩手県山田町船越の浦の浜農地海岸の被害】  
写真右側の浦の浜からの津波と左の陸側(南船越漁港)から遡上した津波が合流した地区。浦の浜側の海岸堤防は完全に倒壊し、低地部の施設は完全に流失しているが、国道45号線沿いの集落は被害を免れている。

○第9次派遣(4月14日～16日):原口暢朗、塩野隆弘、北川 巖



【海水が堤防を越えて流入した水田(宮城県)】  
礫・土砂の混入しない海水のみが流入した水田(4地区)の現地調査。各地区とも津波到達の数時間後に海水が河川堤防(写真左)を越流し、水田に流入して冠水。冠水が長期化した水田では相当量の塩分が流入(写真右)。農家では除塩を行って今期の水稻作付を希望。



【管内普及部門主催の塩害等対策会議に出席】  
管内普及組織が主催する塩害対策会議(第4回)に出席。議題は、作物情報、施設の復旧状況、除塩方法等。急速な除塩に係る用水水質のチェック、現地状況に応じた方法の選択(暗渠の活用、代かき・落水)等について技術的な助言を行う。

○第10次派遣(4月15日):中嶋 勇、有吉 充、上野和広



【パイプライン(栃木県)の曲り管部の被災状況】  
構造物に接続する曲がり管部周辺で漏水が生じて道路が陥没。パイプ内部から継ぎ手部の状況を詳細に確認して、被害範囲の特定の必要があることを助言。



【パイプライン空気弁付近の塩ビ管継ぎ手の被災状況】  
空気弁に接続する塩ビ管(TS継手)から漏水が発生。接着剤による継手接続が、地震時の地盤変位や空気弁工の変位にパイプが追従できず塩ビ管本体が破損した模様。



【供用開始前のロックフィルダム(茨城県)の調査状況】  
左岸部の地山と堤体との境界部の保護アスファルトに発生したクラック(施工時の継ぎ目に一致)へメチレンブルーを投入。



【供用開始前のロックフィルダム(茨城県)の調査状況】  
保護アスファルト剥ぎ取り後に路盤のクラックを確認(路盤内の10cm程度の深さにのみ発生)。